

### 第3章 1. 北方民族の活躍と中国の分裂 d. 魏晋南北朝の文化(2)

④この時期の貴族文化…[1 精神の自由]を重視、[2 道徳]や[3 規範]にしばられない趣味の世界を好む **儒教の人気は低い**

•[4 清談]の流行(後漢末～魏晋)…竹林の七賢など

世俗を超越した議論

•文学…[5 陶潜(陶淵明)]…「[6 桃花源記]」や「帰去来の辞」=田園生活へのあこがれを示す

**謝靈運 桃源郷=中国の理想郷**

→この時期の文学=「7 文選」(梁の昭明太子編纂)[8 四六駢儷文]文などを集める。

**画聖**

•絵画=[9 顧恺之]「女史箴図」、書道=[10 王羲之]「蘭亭序」

五胡十六国の混乱をおさめ、華北を統一したのが[11 鮮卑]族が建てた[12 北魏]である。この国の[13 孝文]帝は鮮卑族の農民化、習慣、風俗の中国化といった[14 漢]化政策をとり、首都も[15 洛陽]に移した。また[16 均田]制という土地制度をはじめた。これは成人に一定の広さの土地を与え、一定の年齢になると土地を返却させるとしたもので、農民の定着を図るとともに[17 租税]の徴収を確実にし、同時に貴族による土地の独占を防ぐ狙いをもった。北魏はこれ以後分裂し東魏、西魏となり、つづいて北齊、北周となる。これら鮮卑族の五王朝をあわせて[18 北朝]と呼んでいる。これにたいし江南地方では晋の一族司馬睿が[19 東晋]を建国、以降宋、齊、梁、陳の4王朝が興亡した。この5王朝を[20 南朝]という。南朝では[21 貴族]中心の政治がおこなわれ、[22 六朝]文化とよばれる貴族文化が発達、水田耕作による[23 水稻耕作]の普及など江南の開発も急速に進んだ。

### 2 東アジア文化圏の形成 a. 隋の統一 南北朝以来の制度を引き継ぎ、整理

①6世紀末(581)、北周の外戚の[24 楊堅] (文帝)[25 隋]を建て中国を統一(589)

都[26 大興] (長安)

(1)土地制度=均田制([27 北魏]以来)、税制=[28 租庸調]に整理

兵制=府兵制([29 西魏?]に始まる)

(2)官吏登用制度=[30 科挙]の実施

科挙…[31 儒教の学科試験]で人材をもとめる[32 官吏登用]制度。以後、20世紀初頭までつづく。

point 中国の官吏登用制度

漢=[33 郷挙里選]→魏～南北朝=[34 九品中正]→隋～清(1905)[35 科挙]

②2代皇帝[36 煬帝]の政治 秦の始皇帝や漢の武帝に憧れる

1)大土木事業=[37 大運河]の開削

2)対外遠征=朝鮮に遠征、[38 高句麗]に敗北→農民反乱の発生→618 滅亡

6世紀末 589年[39 楊堅(文帝)]は南北朝を統一、中央集権化をすすめ、北魏以来の[40 均田]制を基礎に社会体制を整えるとともに官吏登用制度に[41 科挙]制を導入し、後に大きな影響を与えた。これをついだ[42 煬]帝は[43 大運河]の開削をしたり、[44 高句麗]を遠征、攻撃したが失敗、これをきっかけに滅亡した。

### b. 唐世界帝国の成立

①7世紀初(618) [45 李淵] (高祖)、唐を建国

→[46 李世民] (太宗)のもとで政権の基礎を固める([47 貞観の] 治)

②高祖…周辺民族を攻撃、領土を拡大

ア)[48 突厥]を服属させ、中央アジアに進出

(※751年イスラム勢力に[49 タラス]河畔の戦いで敗れる→)[50 製紙]法、西方へ)

突厥…[51 6]世紀中頃、[52 モンゴル]高原を中心に[53 中央アジア]から[54 東北部]にいたる大遊牧国家を打ち立てた[55 トルコ]系遊牧民族。独自文字としての[56 突厥]文字をつくった。西部では[57 ササン朝ペルシア]のホスロー1世と結んで中央アジアの遊牧民[58 エフタル]を滅ぼした。6世紀末に東西に分裂、7世紀には[59 唐(高宗)]の攻撃を受け、服属した。東突厥は8世紀[60 ウイグル]に滅ぼされる。

イ)[61 高句麗] (朝鮮北部)[62 百済] (朝鮮南部)を滅ぼし、[63 日本]を破る(白村江の戦い)

→朝鮮半島は[64 新羅]が統一

ウ)周辺民族への対応→[65 羈縻]政策。[66 都護府]を置き監視する

※羈縻(きび)政策…服属した民族の族長を都督などの官職に任命し、一定の自治権を認める政策

**馬を革のひもで縛っておく**

※都護府…唐代に[67 異民族の監督]のために設置された機関。長官の[68 都護]は中央政府から派遣され、民政、軍政を掌握した。

③多くの国を[69 朝貢]させ、[70 冊封]関係結ぶ→世界帝国として周辺民族に強い影響力をもつ

※朝貢…他の国々が中国に貢ぎ物を差し出し、71 **主人と家来** という関係を結ぶこと。国際秩序を確認するとともに[72 貿易]としての側面を持つ。

※冊封関係…中国の王朝が朝貢国の首長を王や侯に任命したり将軍などの官位を与えて、その地域の統治を承認する関係。冊封を受けた諸国は、中国に従属することにはなったが、それぞれ中国の権威を借りて政権を安定させ、中国との経済・文化の交流が保障されることになった。東アジア世界に成立した中国を中心とする国際秩序を、冊封体制とよぶ。

唐は7世紀初の618年[73 李淵]によって建国され、その子[74 李世民] (太宗)のもとで政権の基礎を固めた。

唐は高宗の下で[75 突厥]をやぶり、その支配地をモンゴル高原から西域方面へと拡大していった。そして、周辺民族を監視するため[76 都護府]を置いた。こうして[77 絹の道]を経由した東西交易は全盛期をむかえたが、751年には急速に勢力も伸ばしてきたイスラム勢力に[78 タラス]河畔の戦いで敗れた。

[79 海上交易]も発達し中国南部の広州には[80 市舶司]がおかれ国家が貿易を管理するようになった。また[81 新羅]と結んで朝鮮半島に進出、[82 高句麗][83 百済]を滅ぼし、[84 日本]を破ったが、統一を実現した[85 新羅]によって退却を余儀なくされた。こうしたなかで多くの国が中国に[86 朝貢]し、[87 冊封]をうけるなど周辺の民族に強い影響力をもち、唐は名実ともに世界帝国となった。